

令和4年度 岩手県立杜陵高等学校（本校）経営計画

校長：高 橋 正 浩

|                 |                 | 児童生徒   | 保護者  | 地域住民   | 地域中学校・高校  |
|-----------------|-----------------|--|--|--|---|
| 1<br>現状把握及び将来展望 | (1) 学校に対するニーズ   | ○生徒が抱える課題への理解と自立に必要な教養や技能の習得<br>・学力の定着と向上<br>・進路希望の実現<br>・充実した学校生活<br>・高校卒業の実現   | ○学校生活を継続し、高校卒業を実現する。<br>○社会人としてのコミュニケーション能力の育成<br>○進路希望の実現 | ○働きながら学ぶ学生の教育を担う学校<br>○多様な生徒が社会に適應できる教育を実践する学校<br>○社会に貢献できる人間を育成する学校   | ○生徒一人ひとりの目的や課題に応じた多様な学びの場<br>○単位制による学年横断的な特徴ある授業の提供       |
|                 | (2) パートナーとの関係   | ○単位制教育の充実を図る。<br>○生徒一人ひとりを大切にする個に応じたきめ細やかな教育の充実  | ○教育活動全般に理解があり協力的である。<br>○通信制はF T Aを組織して対応（F＝Family）        | ○定通教育の理解と生徒の生活・行動面での情報提供等の協力と支援（町内会・警察・医療機関等）                          | ○中高連携を図り、本校定通教育への理解の浸透を図る。<br>○本校に興味・関心のある生徒・保護者に対しての情報提供 |
|                 | (3) 学校に影響を与える変化 | ○新学習指導要領の実施<br>年次進行により実施となる新学習指導要領に対応する。<br>○新型コロナウイルス感染拡大防止対策<br>県教委と連携を図りながら生徒の安全安心を最優先に感染拡大防止に努める。<br>○生徒一人ひとりが抱える多様な事情<br>心身の発達状況に何らかの課題を抱え、特別な配慮や支援を必要とする生徒や家庭事情による不安を抱える生徒等の増加に対応する。<br>○定時制・通信制生徒の質的变化<br>勤労生徒が減少し、不登校経験のある生徒や特別な配慮や支援を必要とする生徒の増加。<br>○スクールポリシーの策定、コミュニティースクール設置準備。 |  |  |   |
| 2 校訓・教育目標       |                 | 校訓「熱意 誠意 創意」<br>＜教育目標＞ (1) 自他の人格を敬愛し、心身ともに健全な人間の育成<br>(2) 自主自立の精神を持ち、社会に貢献できる人間の育成<br>(3) 自己の能力を伸ばし、学び続ける意欲を持つ人間の育成  |  |  |   |
| 3<br>目指す学校像     | (1) 今年度の重点目標    | 重点目標   |  | 達成指標   |   |
|                 |                 | ア 基礎基本の定着と学力の向上を図る。(ICT 活用を推進する事も含む)   |  | ・教科の授業内容がわかると答えた生徒の割合【85%以上】   |   |
|                 |                 | イ 人間性豊かな生徒を育成する。   |  | ・自分によいところがあると答えた生徒の割合【60%以上】   |   |
|                 |                 | ウ 基本的生活習慣の確立を図る。   |  | ・出席率（定時）【80%以上】<br>・単位修得率（通信）【80%以上】                                   |   |
|                 |                 | エ 安心安全な学校づくりに努めるとともにいじめ等の相談に親身になって対応する。  |  | ・先生方は、自分が相談したときにきちんと応じてくれると答えた生徒の割合【85%以上】<br>・高校生活に満足と答えた生徒の割合【80%以上】 |   |
|                 |                 | オ キャリア教育を充実し、生徒の進路希望の実現を図る。  |  | ・希望する進路目標を達成した生徒の割合【90%以上】   |   |
|                 | (2) 取組方針        | ア 生徒一人ひとりの目的や課題、困り事に対応した教育の実践と教育相談の充実<br>(ア) 生徒一人ひとりの目的や課題、困り事（いじめ含む）の情報を共有し、教育相談や生徒指導の充実を図り、早期発見と解消に向けた適切な対応を行う。<br>(イ) 沿岸部や原発地域出身生徒の状況を把握し、幼少期に被災した生徒に十分留意するとともに個々に寄り添った丁寧な対応に取り組む。<br>(ウ) 特別支援学校のセンター機能の活用と外部関係機関との連携を図る。<br>(エ) 特別支援教育に係る校内研修会を実施し、情報の共有と指導の充実を図る。                     |  |  |   |
|                 |                 | イ 社会に通用する総合生活力と人生設計力を基盤とする生きる力の育成<br>(ア) 個々の習熟度や困り感を把握し、生きる力を育成する指導を実践する。<br>(イ) 「学習評価」の研究を進めるとともに、自己有能感・有用感を醸成する。<br>(ウ) 社会人としての総合生活力（豊かな人間性・健康な体・確かな学力）の育成   |  |  |   |
|                 |                 | ウ 明朗な学校生活と生活指導による人間形成の充実<br>(ア) 生徒主体の教育活動を推進し、充実した学校生活を送るとともに生徒一人ひとりの自己肯定感を醸成する取り組みを実践する。<br>(イ) 学生として、また、社会人としての節度ある言動と品位ある生活態度を確立し、自立して行動できる人材を育成する。<br>(ウ) 生徒には目標を持たせ、個々の実態を把握しながら就労を勧めるなど、職業観・勤労観の醸成を図る。   |  |  |   |